

くわなべついでんほんとうじほうおんこうあんない
桑名別院本統寺報恩講案内（23日）

- 7：00～ 結願晨朝けちがんじんじょう 法話りんばん 輪番おおまち 大町慶華けいけ
- 9：00～ 帰敬式ききょうしき（受付午前8時より）
- 10：30～ 法話いけだ 池田勇諦ゆうたい氏（桑名市さいおんじ 西恩寺前住職）
- 13：00～ 結願日中法要けちがんにちゅう 御鍵役御参集おかぎやくごさんしゅう
- 引き続き 別院輪番挨拶

き きょう しき
帰 敬 式

帰敬式は一般に「おかみそり」として親しまれ、人として生まれた意義と生きる喜びを見出した
いと願う私たちにとって、お釈迦様の教えを依拠よりどことして人生を歩んでいくことを名告る儀式で
す。儀式では、おかみそりを受けて、仏・法・僧の三宝に帰依することを誓い法名をいただきます。
法名をいただくことは、亡くなってからのことと思われがちですが、帰敬式はお釈迦様のお弟子
「仏弟子ぶつでし」になることを名告る大切な儀式です。ですから法名はなくなってからいただくものでは
なく、生きている今だからこそ人間としての生き方、在り方を問い学んでいこうと誓った真宗門徒
としての名前です。

とき
お 齋

お齋とは各寺院・御門徒宅での報恩講はじめ法事などの仏事に出される食事のことです。元来
仏教の出家者は1日1食とされ、正午以後に食事をするのは「非時（ひじ）」として禁止されてき
ました。そのことから午前1度の食事を「お齋（おとき）」といたしました。

「寄り合い」や「講」として、ご門徒が寺や道場に集まり、仏法を聴聞し、持ち寄った野菜で
料理を作り、一緒に食事をするを通して人と人のつながりを深め、信仰を確かめ続けてきま
した。中でも真宗門徒にとって一番大事な仏事「報恩講」にその伝統が引き継がれているのです。

桑名別院の報恩講においても、三重県内各地のご門徒より材料が持ち寄られ、お勝手方によっ
て独自のお齋を用意いただきます。

おかぎやくごさんしゅう
御鍵役御参集

門首^{もんしゅ}を補佐するとともに、本山御影堂^{こせいどう}の親鸞聖人御真影^{ごしんねい}を安置するお厨子^{ずし}の御鑰^{かぎ}（かぎ）の管理にあたる方を「鍵役」といいます。この鍵役に御参勤いただくことを御参修といえます。

桑名別院報恩講では、毎年、22日の結願速夜^{けちがんだいや}から23日の結願日中^{けちがんにちゅう}（御満座^{ごまんざ}）まで御参修いただいております。

ほうようしだい
法要次第

7:00~
正念和五回御
信 偈
念 仏 讚
和 さん 讚
五 遍 反
回 向
御 文

けちがんじんじょう
結願晨朝

真読
淘八
南無阿弥陀仏ノ回向ノ 次第六首

(上-15丁右)
(上-129丁右)
(上-291丁左)

がせびそんくどくじ
我說彼尊功德事
驚聖人 3帖目第9通

(上-108丁右)

13:00~
伽陀
登高座
式嘆徳文
伽陀

けちがんにちゅう
結願日中法要 (楽)

けいしゅてんにん
稽首天人

つけもの
附物

(上-315丁右)

にやくひしゃか
若非釈迦
世尊説法
身心毛孔

つけもの
附物
つけもの
附物
つけもの
附物

(上-316丁右)
(上-318丁右)
(上-320丁右)

げこうざ
下高座

じきにゅうみだ
直入弥陀

つけもの
附物

(上-321丁右)

もんるいげ
文類偈
念仏讚
和さん讚
回 向

そうしくめさげ
草四句目下

淘八 三重念仏
三朝浄土の大師等 次第三首
願以此功德

つけもの
附物
つけもの
附物

(上-60丁右)
(上-129丁右)
(上-294丁左)

※ () 内は「大谷声明集(緑本)」です